

住民による住民のための持続的¹地方創生を考える委員会

地方創生を誰が担えば良いのか？

Gemba Lab 代表
安井孝之

わたしはこんな事をしてきました

- 1957年兵庫県丹波市生まれ
- 大学を出て、経済雑誌の日経ビジネスから朝日新聞。東京、大阪で勤務し、田舎とは疎遠に
- 朝日新聞では自動車、流通、金融、不動産、鉄道などの産業と経産省（通産省）、財務省（大蔵省）などの経済官庁を取材。最後は編集委員
- 2017年4月16日に定年、独立
Gemba Lab(株)を設立、フリー記者に

どんな人が担うのか
外者、若者、馬鹿者？



小値賀島に残る古民家



小値賀島の自然と教会。向かいの野崎島にはかつて隠れキリシタンがいた。



野崎島の野生の鹿。500頭が生息。

小値賀島の挑戦

- 人口は3000人。ピークは1950年代の1万1千人。高齢化率は40%超。
- 05年にアレックス・カーが来島。「日本の奇蹟」
- 07年に「民泊」を地域振興の柱に。
- ピープル・トゥ・ピープルの評価で二年連続世界1に。
- 「小値賀観光まちづくり公社」が設立(09年4月)。40数年ぶりの会社設立。
- 2010年夏、古民家を再生したレストラン、ホテルがオープン。

古民家を再生したホテルの様子



NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会のwebサイトより



民泊先のおばさんと魚の水揚げ作業を手伝う高校生。おばさんは大阪からの移住



民泊先で「かんころもち」をつくる女子高生

民泊先で最後の昼食





高砂樹史さん
(理事長)

波止場の別れ。涙と笑顔



その後の小値賀島

- 2005年の観光物産収入(物販、宿泊など) 数千万円
常勤雇用者 3人
- 2012年 観光物産売り上げ 2億円
常勤雇用者 約20人
- 現在 観光物産収入 5億円
常勤雇用 50人
出生数は10数年前の水準になり、年20人に

•高砂 樹史さんのその後「外者」として2カ所目の活躍 偶然の重なりが結果を生み出した？

2005年、長崎県五島列島へ移住。島の観光まちづくりに参加。アメリカ高校生の国際交流事業などの取組みが、2008年度には「JTB交流文化賞最優秀賞」「オーライニッポン 内閣総理大臣賞」などを受賞。また、着地型旅行会社である観光まちづくり公社の立ち上げにも参加し、東洋文化研究家のアレックス・カー氏との連携で、江戸末期の古民家などを再生したレストランや宿泊施設を活用する「新しい島旅」事業も展開。

2016年1月一身上の都合により離職し島も離れ、長野県茅野市に移住。

現在は、**茅野市観光まちづくり推進室長**、長野県DMOアドバイザー

【その他の肩書】

総務省 地域力創造アドバイザー

NPO法人日本エコツーリズムセンター 理事

農水省 子ども農山漁村プロジェクトコーディネーター

内閣府 観光伝道師

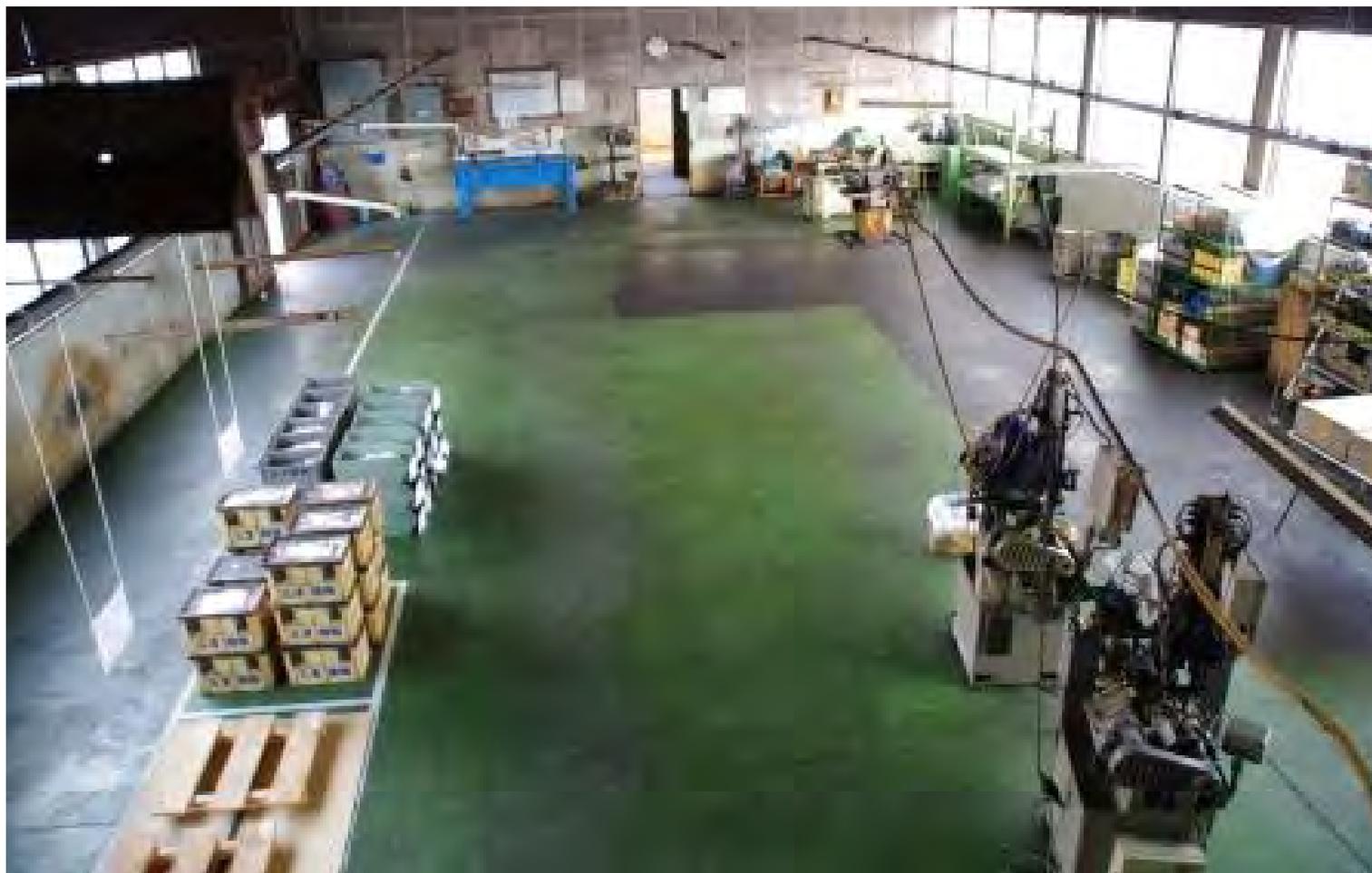
観光庁 観光地域づくりマネージャー

観光庁 地域に向けた観光関係研修講師

社会イノベーター公志園フェロー



長野県飯田市のLED防犯灯



生産ラインや在庫を見直し、空きスペースとなった工場。
かつては装置や資材で一杯だった。

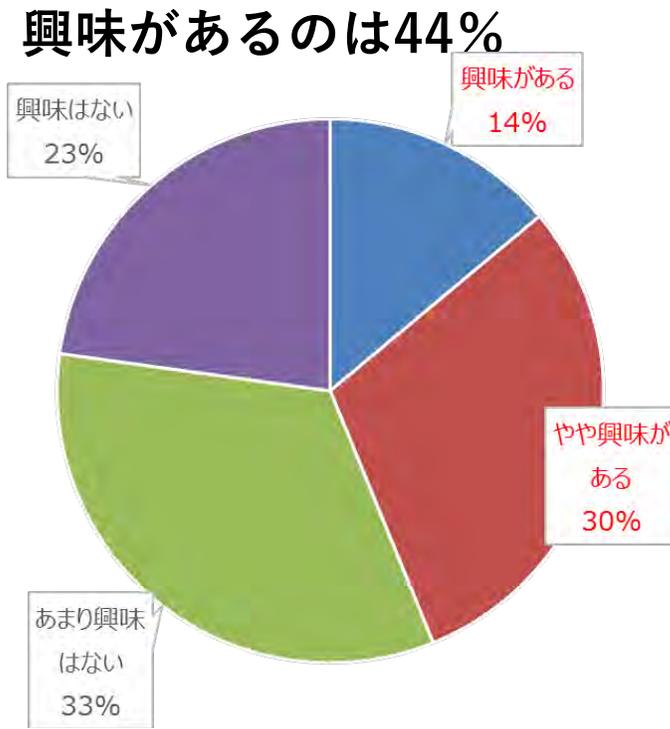
**大都市から地方への人材還流を
どう考えればいいのか？**

「都市から地方への人の流れを変える」 安倍政権の目論見の結果は？

日本人材機構の設立(2015年8月、資本金25億円)。

2023年3月末に解散

地方企業で働くことに



日本人材機構の独自調査結果
回答数1640人

日本人材機構のこれまでの成果

- **第一号案件 瀬戸内版DMO「瀬戸内ブランドコーポレーション」へ人材派遣(2015年12月)**
- **現在まで成約件数 33件(公表値は22件)**
- **派遣者のプロフィール 平均年齢48歳(29～54歳)**
- **決定年収 平均946万円(前職年収平均932万円)**
- **企業紹介から入社までの平均日数 289日**
対象者600人から20～30人に絞り、面談などで決定

年収、転居、業務内容など多くのハードル。担当者は「簡単ではない」という実感

検討課題

- 「外者」に効用あり。外者の刺激が地元を変える可能性。「偶然の妙」に任せている「外者」確保をどう仕組み化するか？
- 都市部に近い地方では、外と内との中間型「地元愛サポーター」が有効かも。サポーターを増やす対策は？
- 地元人材の育成策。ものづくり系、現場改善系ではインストラクター養成の広がりも。引き続き強化を。
- 人材還流について。「支店経済」(札幌、仙台、広島、福岡など)は大手企業OBの活用も。
- 首長、市町村議員の確保策の検討(選挙に出やすい制度とは？)